

ヤマハ発動機の長期ビジョン 及び中長期成長戦略と知財活動

大 谷 到*



はじめに

当社は、パワートレイン技術、車体・艇体技術、制御技術、生産技術を核とし、二輪車や四輪バギー、電動アシスト自転車などのランドモビリティ事業、ボート、船外機等のマリン事業、サーフェスマウンターやドローンなどのロボティクス事業など多軸に事業を展開し、企業目的である「感動創造企業」の実現に取り組んでいます。今や、当社製品は180を超える国・地域のお客さまに提供され、連結売上高の約9割を海外で占めるに至っています。

ヤマハ発動機の長期ビジョン及び中長期成長戦略

昨年当社は、2030年に向けた長期ビジョンとして「ART for Human Possibilities」を策定しました。この長期ビジョンには、当社が設立以来60年以上に渡り培ってきた技術と感性を、これまで以上に「人間に近づく」・「人間の可能性を拓ける」ことに適用し、当社らしい取り組みによって社会の要請に応えたいという想いが込められており、成長領域として「Transforming Mobility」「Rethinking Solution」「Advancing Robotics」を掲げています。以下、これら成長領域について簡単に説明します。

「Transforming Mobility」：電動アシスト自転車PASで培った電動化技術や、バイクを操縦するロボットMOTOBOTの制御技術、LMW（Leaning Multi Wheel）の安心快適と楽しさを両立する技術などに、CASEといった新領域の技術を組み合わせることで、ヤマハらしい製品で社会課題の解決に貢献していきます。

「Rethinking Solution」：現在、ランドカーをベースに全国各地で、高齢者・過疎地域の輸送システムや貨客混載のマルチユース輸送システムの実証実験を行っています。今後は、低速自動運転車両だけでなく、電動アシスト自転車や電動車いすも含め、スローモビリティを中心にしたまちづくりにも貢献していきます。マリンビジネスにおいても、自動操舵技術の開発を進め、より安心・快適なマリンライフの提供を目指していきます。

「Advancing Robotics」：農業分野、医療分野の取り組みに注力します。当社は無人ヘリコプター分野で、農業市場においては30年以上の実績を積んでおり、今後は、農業の省人化と生産性向上に向けて、より積極的にドローンや無人陸上車を市場投入することで、食料の安定供給に貢献していきます。医療分野においては、2017年に販売を開始したCELL HANDLER™や、ベンチャー企業への出

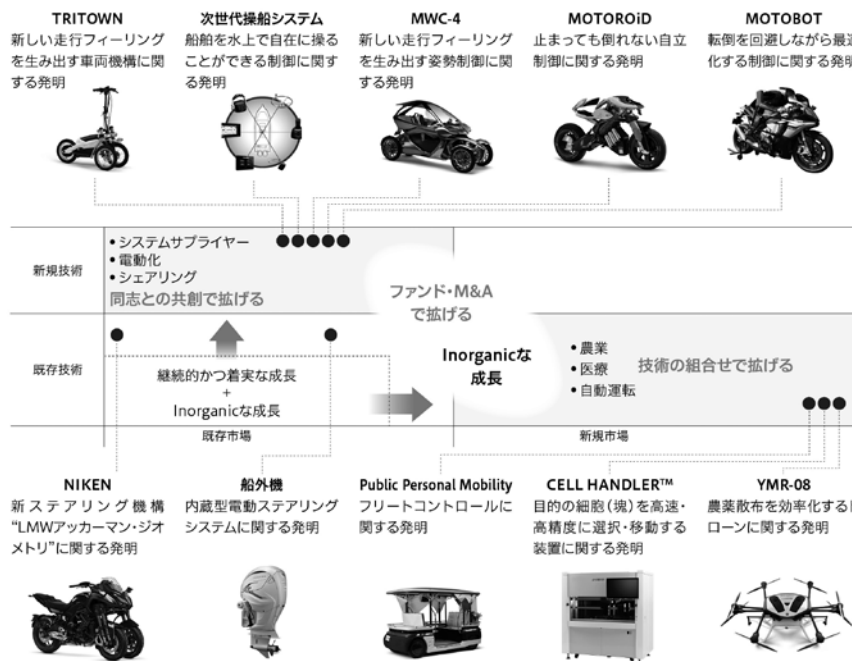
* ヤマハ発動機株式会社 執行役員 人事総務本部長 Itaru OTANI

資を通じて受託サービスなどのソリューション事業の可能性も模索し、ポテンシャル3兆円といわれる個別化医療や、抗体・創薬の市場で存在感を確立していきます。

ヤマハ発動機の知財活動

これらグローバルな事業活動および先進的な成長領域における競争力を高めるためには、製品開発や技術開発と連動した知財創造を主とする従来型の知財活動に加え、他社に先駆けた新技術・新市場コンセプトによる差別化を知財面からも実施していく必要があります。このため当社は、「IP for Business」という旗印を掲げ、既存の事業や市場の先にある長期ビジョン及び中長期成長戦略で掲げた成長領域、更にはその先の潜在的な成長領域を見据えて、以下を「知財活動方針の四本柱」として取り組みを進めています。

- ① 既存事業の製品開発や技術開発に連動した知財創出を主とする従来型の知財活動から一步先へ。
- ② 既存技術の先を見る「先取り」と、既存市場の先を見る「領域拡大」の知財活動に取り組む。
- ③ 更なる「先取り」と「領域拡大」を狙う先進的な領域を、知財ランドスケープ分析から示す。
- ④ 以て、経営の判断や戦略策定に、市場・技術の成長分析に加え、知財分析の視点から貢献する。



現在はこの四本柱に基づき、各事業部門と知財部門とが密にコミュニケーションを取り連携しながら、各取り組みを進めています。これらを通して当社の強みを更に活かした新技術及び新市場領域の探索や事業協業・M&A・技術提携等の検討を知財面からも行い、新たな知財創出にも繋げながら、ヤマハ発動機グループの更なる競争力向上と持続的成長を支えています。

おわりに

当社は、上記活動に具現化されるように、知的財産を様々な国・地域におけるグローバルな事業活動や先進的な成長戦略を支える重要な「資産」として捉え、知的財産の一層の創造・保護・活用とその価値向上を図ることにより、当社の企業理念である「感動創造企業」の実現を目指して参ります。